

予定入院における円滑な病院内連携

施設名：保岡クリニック論田病院

発表者：榎本 友美 (社会福祉士)

共同演者：河野 和美 (看護師)

米田 勝繁 (介護福祉士)

中村 宏輝 (理学療法士)

内田 理栄子 (看護師)

谷 知恵 (介護福祉士)

七田 恵里加 (看護師)

堀田 弥和 (理学療法士)

鳴滝 仁美 (事務)

元山 あけみ (看護師)

当院は、地域包括ケア病床22床、医療療養病床25床の病院である。診療科目は、ペインクリニック内科、内科、リハビリテーション科であり、種々疾患のペインコントロールとリハビリテーションを目的としている。

入退院支援部門が開設されて約3年。今なお入院決定から入院に至るまでの過程がスムーズとは言い難い。スタッフ間の報告・連絡・相談が円滑にできる環境づくりが必要であると考えられる。結果、患者様と病院スタッフの信頼にも影響し、今後の支援がスムーズに運ぶと判断した。

以前は、入院時において各部門それぞれが患者様に対して情報収集等を行っていた。しかし、患者様・ご家族様にとって何度も同じことを聞かれる、長時間拘束される等の心理的・身体的負担が大きい状態となっていた。そこで、入退院支援部門が中心となり、患者様に関する情報を多職種（医師・薬剤師・看護師・理学療法士・管理栄養士・介護士・メディカルクラーク）と情報共有するために、新たなマニュアル作成の取り組みをここに報告する。

方法として、予定入院の場合において、入院の決定から入院当日に至るまでの病院内連携の現状調査をし、問題点や課題について話し合いを行った。話し合いの結果から、情報共有のためのツールとして“アセスメントシート”の作成、患者様に渡す資料や書類の見直し、連携マニュアル作成を行った。

実際に運用した結果、各部門が患者様の生活状況を含めた全体像を把握することで、患者様に合わせた入院治療の提供、退院に向けての支援を行うことができた。マニュアルの作成により、各部門の連携がスムーズになり、患者様と病院スタッフのより良い信頼関係を保つことが可能となった。今後も当院の理念でもある、「どなたにも納得いただける医療と介護の提供」を行い、患者様の希望や想いを叶えることができるよう、邁進していきたい。